



三七全傳
 占夢南柯後記
 五
 第三篇



特別
 ~ 13
 3148
 17



へ13
3148
17

柴橋の両笠

厚子倉庫人が物語を夢のどくよ字居たる全女の身や貴て
 勃然と身を起し。仇と云はる四五六の庫人友善。妨げ目よりの
 見えん。羊七りろ共刃を受ふと罵罵つ。縁頼へ跳上り。刀の
 鞘へ手を拭き。賞布の幕をこそ掲す。一人の武士走る。お
 全女を遮り。苗めて右手より提し。小刀を抜も放さず。礮と打
 見。全女を搔む。信とその顔をくら。観て去羊の春操本の
 あり。まを跡跟たれ。心く怒る。仇の赤根羊之進。実父の仇人
 脱すと。跳蕙。腰刀を抜んと。手を抜も。果ぶ。又下と。打居
 是の全女か。焦燥。組んと。手を楚と取。早り。あの家
 羊之進。が。上。ぐ。密事あり。今。の。小刀を。打ち。お。ら。せ。り。



私意あらじと乃ちん父順務朝臣の後事を懲らぬ打搦をぞ
おひわたりぬらん。とゆふゆとゆふて全ぬるをゆふ。この期は
及ぶ余を惜致りて実父の今市全八養父の敗織女四郎。それより
外は親の。戯言食ひと立あつて。勝負を決せしむと敦園は
半之進莞尔らち笑え君の爲の一点むらも余を惜ぬ半之進
何狼狽たる依をまうんべた君の正しく続井の嫡男。今市あんを
実の父と思召の物体あり。いざあはれと恭しく上座(推居れば厚
倉車人も席をわり半七もそのの頭末のあらねども父の後方小
居つりて各位さへ敬されん全ぬる小や疑ひ惑ひてまを
又たつ沈吟せり當下半之進の膝行しき席をさめ縁故を知ら
ね疑惑しぬの理さるる。僕に三十あまり一年まをやるる

べし。永正十二年といひ。春の比ぶ君順務朝臣吉稚をゆふし。昔
積鬱を保養の爲義洛(潜る)のぼりあかん供よ。今市全八
布施蜂九郎あくちうん。半之進ゆひ。あつるに伊臣布施今市
君は酒をさめ進らせ。義洛よ名な白拍子歌舞姫を
集合つ。長夜の飲その度は過たり。それが長る。花姫の中小笠屋
小夏といふのあり。彼は義洛の刀拭同樹といふの女児也。実の
名をば増穂といふ。笠屋夏は秋夜を習ひて。むくの千子微妙
ともゆふべた。弱女なれば吾君不覚ゆらるるを移して。有一夜
小夏は後館(止宿)う。ぶびつておらひあめ。小夏は元来吾
君は続井の郎君といふらら。その名を問は吾君も実の名を告
ぬらん。続井の近習の士今市全八郎といふの。と詐欺す。

二夜さぬりをおもひつゝあつゝ、其の密詰ぬひつゝ、この物体ある
 四進止むるべらむとも思ひゆらぐり、平城へ戻るるを、大殿の怒り
 けり。あん身のさへいりんと面を犯し、諫めやうぢり。是より
 小夏を召れ、れども君も只其をのびせたり。の小思百今市布院ホ
 時をゆる、終ゑまその間ありし、初は其のあん前を遠離られ、病と
 稱し、宿は籠居し。ひとり心をうつり、果し、君のあん城度
 平城へゆき、父の肩より、おんおんとあつゝ、厚子、君、二郎、大夫
 られを、歎た、竊に、某が、夜宿を、訪る。計策を、謀り、い、い、成、某が
 身より、負、その、夜、三勝を、奪ひ、去り、久、大殿の、あ、憤、忍、比、解、橋、持
 和、順、あ、あ、ひ、た、あ、く、六、年の、春秋、く、ら、り、某、夫、婦、百、く、これ、又、い、や、く
 の、年を、預、れ、か、も、吾、君の、あ、ん、子、の、徳、姫、の、ま、い、で、来、あ、ひ、て、回、り、あ、の
 絶、る、ま、し、く、つ、お、ん、続、井の、血、絡、絶、ん、う、と、し、君、も、物、憂、あ、り、む、ご、も
 人、力、の、あ、る、が、べ、た、よ、め、ら、れ、ど、さ、る、初、は、一、昨、年、の、初、冬、六、日、浪、連、る、う、千、日
 墓、より、其、一、家、蟻、松、一、族、流、行、の、米、を、引、たり、し、小、集、合、な、る、負、入
 乞、丐、多、あ、る、中、よ、年、才、を、廿、八、九、あ、る、社、校、の、い、と、宴、こ、く、ん、え、た、ら、が、
 人、の、後、方、よ、立、躲、ま、は、院、米、を、受、け、つ、ら、る、を、ら、れ、ど、その、面、影、何、と
 ろ、吾、君、順、勝、朝、臣、よ、う、く、似、つ、り、ら、る、ゆ、や、く、と、ひ、つ、あ、く、意、小、も
 と、め、ざ、り、し、小、去、年、の、秋、操、本、の、松、原、ま、り、某、が、轎、子、へ、鳥、銃、を、う、ち
 け、り、し、時、親、母、の、自、救、も、愁、傷、ら、る、社、校、あ、り、其、その、と、え、和、述、の
 八、幡、宮、より、之、を、樹、の、蔭、に、立、躲、ま、る、事、の、容、を、張、へ、か、と、ま、り、が
 養、母、の、某、が、母、孫、孫、が、妹、晚、猶、り、又、社、校、ハ、カ、治、同、樹、が、妻、の、孫
 今、市、金、八、が、実、子、あ、る、よ、し、未、し、く、成、り、口、説、を、け、し、と、い、は、く、

南村後記巻八

関窺ふ。彼社伎のいぬる年。十日墓より施米を受たる負人あり。
 入れば。吾君の面影よく肖たり。折しむれ。曩小周防を
 逐電す。厚倉車人しをり。敗鐵の四五と名告。彼社伎を
 勦す。慰め早稲の死骸を。鐘櫃に納めつ立ぬ。彼車人が。体
 実酒。酒を忘。逐電す。たりの。あら。彼人。を
 窺。彼社伎。助る。その。所。小。と。推量。その。夜。刀。を
 打折。其。預。主君。恩賜。の小刀。を。抜。彼社伎。が。隅。を
 一。大。吹。著。あ。縁。私。平。丹。が。死。骸。の。ほ。り。送。した。る。
 件。の小刀。を。取。挑。燈。の。火。つ。と。これ。を。え。れ。は。じ。の。君。頃。勝
 朝臣。米。谷。山。の。妖。氣。を。え。ん。と。樓。に。登。り。つ。の。あ。ん。佩。刀。を。走。ら
 一。藤。口。を。突。傷。ま。の。り。と。た。の。刀。失。凝。著。主。君。の。鮮。血。

社伎の鮮血といつら。聚。現。詳。と。取。親。子。の。證。据。い。ま。ら
 の。あ。ん。佩。刀。を。い。く。も。ま。じ。場。で。丹。之。の。預。し。る。下。郎。あ。れ。ば。も
 丹。之。が。彼。君。を。傷。す。一。命。を。預。せ。あ。り。君。あ。ん。子。を。奉。あ。ひ。ら。
 う。を。と。ら。叔。母。早。稲。老。女。が。襪。襪。の。中。に。を。ま。よ。ら。せ。健。氣。小。も
 生。育。す。その。功。也。又。賞。を。べ。と。と。喜。く。也。又。哀。し。も。限。ま
 ら。れ。ど。厚。倉。車。人。傳。死。居。れ。郎。君。の。う。か。安。し。と。その。夜。を
 その。ま。追。ひ。も。苗。木。精。塚。を。護。り。も。君。は。禍。あ。ら。せ。と。く。
 車。人。が。所。お。と。精。し。ま。ら。ら。は。秘。し。入。り。昔。久。閑。居。恩。免。の
 目。を。行。す。の。あ。ん。佩。刀。を。聚。合。する。に。父。子。の。鮮。血。を。吾。君。よ。ん。と
 あり。あり。つ。も。も。ま。ま。ら。は。吾。君。の。夫。婦。欣。熱。と。欣。び。た。ま。ひ。
 ころ。そ。一。時。の。過。失。の。老。て。の。今。の。幸。福。と。り。ぬ。が。齡。既。了

五十は乃びりのちら男見あはれをのこしつらうぶらうあひひしよ。
 どのど実子を獲たりり。何ハが丹誠よれん早稲丹が後の世を
 叮嚀よ吊ひゆるさよ。車人かふの後日又賞せん。ちのびくふまの
 往方々を索を。仰つ。又そのかん佩刀を預わされけひたかして大内
 家の擾乱よとて。某と申。間諜者を多治比山只遣一使。陶と
 大江の善惡虚実を定規せ。郎君の車人とも小氷上のほとんごう
 在るうを傳使更よ主君の仰を稟大江外と謀。合せて晴賢を
 討ん。沼多の新聞の南たる比某竊よ當由よ来たり。昨今
 括義菴を旅宿とつ。雨乞の法会小假托後。まよ軍兵を
 のの処。集會たり。君の則晴賢征伐の大御軍全ぬを改めけけの
 ぶと。続井小太郎順啓と稱。一をえん。言大殿の嚴命之疑念を
 解す。かん佩刀を受取めあへり。とちらもあ。演説。小刀を引抜く。
 刀尖をえせ進ら。されば順啓の聖合たる。鮮血をうちり。打。
 ころん。ちうえつ。鞠よ納め。三扁戴たり。腰よ帶。大息。呻。取を更め。
 面目のや赤根。又子。誘よい。氏。り。育。養。母。早。霜。の。物。が。り。ま。り。
 つか。実。父。ハ。続。井。の。退。糧。人。今。市。全。八。郎。と。い。ふ。の。ご。と。ま。う。う。ご。却。て
 且。れ。あ。い。忠。義。あ。う。ん。羊。之。進。親。子。を。怒。ん。と。せ。り。る。勸。解。も。あ。ま。り
 あり。車。人。ハ。う。さ。ら。ん。と。ら。ざ。り。欬。ち。る。あ。い。と。や。告。げ。り。と。向。せ。ま。う。さ。り。ま。り。

厚。子。倉。車。人。欣。然。と。う。さ。り。ま。り。と。出。に。不。審。い。さ。る。り。ま。り。が。ら。某。浪。速。あ。り。し。り。
 と。死。か。る。た。敗。鐵。賣。買。あ。の。の。君。の。面。影。を。え。な。ま。り。と。順。勝。朝。臣。よ。し。り。
 似。あ。つ。大。殿。の。と。う。さ。り。ま。り。を。い。て。時。義。洛。の。秋。枝。家。姫。あ。い。と。と。石。を。い。り。
 一。の。亡。父。二。郎。大。夫。が。物。緒。よ。す。た。ら。る。り。も。ゆ。べ。が。り。続。井。家。の。落。能。し。り。

まのきりさど中。とるハ休すもあし交り。浪速よと永樂
三貫文を矯りて危窮を救ひ。そのうち棟本の松原よと自殺を
とめ。その又ハ続井の退糧人今市全八郎あり。ちかめて中にも
面影ハ続井殿ハ似あへハ故らそあらめ。と假初ハ復讐言ハ助大
とてハ勢ハ示しあがら。竊ハ赤根ガ者トあり。周防まを伴ハ
やめらせ只続井殿ハ落胤ある。證據をえおとら。と主来意を
つげし。ふハひのうさねと羊之進ハいらしやられ。宣ハ燈臺
根筒とハ隼人ガあつてゆ。と回答あり。と順啓ハまじく感ハ斜
ららと。あつて前象ありけん。と近丁。夢ハゆめハ人來たら。と
軍法劍法弓馬を習ハ。読書ハ讀を教る。三十四夜ハ及ハ
うの年來ハ一文一字も引さじ。これあれど。學ぶて。思地ハ文武ハ
道を請ハたり。ゆも不思議のゆあり。と宣ハ羊之進。これ

こそ祖父順昭公より。當代ハ至るまで。数十年信仰ハ志貴ハ
昆沙門ハ擁護まき。現嚮ハ羊之進を。智んとし。なまひたる
挙動皆悉法ハ稱へ。と憑ハゆと稱。ゆら。ゆら。羊七
扇をここと披れ。郎君られや。と向ハ順啓。一目ハ見。て
忠臣不事二君。貞女不見兩夫。と書たる。これハ齋王。獨ガ語ハ
本是史記ハ出たるを。劉向説苑ハも。又ハこの語を載たり。と説
示ハゆ。赤根厚倉君感佩ハ。この語ハ常ハ世人ハ口遊ハ。と
行人ハ語る。出処を定る。と稀あり。神明佛陀ハ守らせ
ゆハ龍ハ翼ハ名大將。合戦勝利疑ハ。と祝ハ。厚倉隼人
又ハゆ。布施物ハ托。槐姫ハ唐櫃ハ中ハ。溜ハ。と

伴ひやわらうとて。分た。まは。さ。し。り。ま。あ。る。せ。ん。暑。気。に。
 堪。ぞ。坐。と。ぐ。れ。同。胞。對。面。す。ゆ。と。て。遠。く。庭。の。り。唐。櫃。の。
 蓋。を。開。け。し。槐。姫。の。あ。ん。ま。を。掖。た。母。屋。へ。誘。引。せ。れ。り。頃。終。る。
 席。を。讓。り。て。感。後。に。い。く。い。れ。の。羊。も。ら。り。お。か。れ。ど。その。母。貴。く。
 を。い。え。が。妹。も。う。と。も。好。ま。せ。り。さ。も。晴。賢。が。逆。謀。ま。す。百。折。の。
 艱。苦。を。受。め。り。と。痛。く。と。慰。め。め。槐。姫。涙。を。袖。に。
 う。け。お。さ。め。め。く。さ。め。く。兄。を。面。を。對。する。身。の。幸。ひ。世。は。憑。く。
 ら。ひ。ゆ。り。但。妻。と。い。む。べ。た。の。初。花。が。う。ら。い。よ。代。り。と。あ。る。横。死。と。い。ん。
 ぐ。も。あ。ら。う。か。り。の。法。会。の。折。を。ゆ。く。女。僧。も。あ。ら。う。と。亡。夫。と。い。ひ。
 人。の。苦。提。を。吊。ひ。る。ん。の。詩。う。め。う。と。い。は。る。と。び。宣。へ。
 厚。倉。庫。人。小。膝。を。さ。め。姫。君。あ。ら。う。と。子。歎。た。あ。ひ。と。か。た。が。
 彼。が。情。原。義。基。朝。臣。の。い。ぬ。秋。築。山。の。御。所。よ。か。い。り。刀。を。吐。突。立。
 ら。ひ。猛。火。の中。へ。飛。ひ。ら。ん。と。い。ひ。を。隆。春。竊。に。助。け。ら。れ。て。腹。の。
 郎。黨。と。い。ふ。片。山。里。へ。潛。り。あ。ら。う。と。療。治。を。さ。し。術。を。盡。す。既。に。
 廢。人。と。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ん。命。恙。な。く。遠。く。ら。い。と。い。夫。婦。の。再。會。を。
 有。進。ら。せ。ん。と。慰。め。さ。う。と。槐。姫。原。ま。さ。が。天。の。あ。ら。い。の。世。に。
 ら。を。在。ら。れ。ら。れ。ど。偏。に。陶。五。郎。が。稀。ある。誠。心。の。あ。ら。い。不。喜。し。や。と。
 どの。も。骨。を。合。し。つ。周。防。の。ゆ。を。拜。ま。め。厚。倉。庫。人。の。懷。中。
 へ。隆。春。が。鬘。の。毛。と。短。冊。を。う。ら。し。肩。に。我。く。羊。之。進。か。ら。り。
 近。く。ら。れ。を。置。只。痛。し。の。陶。五。郎。養。父。の。逆。心。を。諫。め。り。さ。も。
 腹。を。切。る。べ。し。と。義。基。朝。臣。を。救。ひ。出。し。ま。ら。ん。ぬ。よ。死。せ。
 三。し。び。諫。め。り。聽。ざ。れ。ば。啼。哭。し。親。に。後。の。本。末。子。なる。の。道。あり。

今更^{いま}は是^{これ}非^た及^{およ}び君命^{きみのみこと}とありひるがら反謀^{はんぼう}人を親^{おや}とありあふ。
隆春^{りゅうしゅん}が一世^{いっせい}の不幸^{ふしちゆ}。そのもめても身^みのあふ果^{くわ}ハ竹鋸^{たけののこ}木の抄^{しり}小首^{せうしゆ}を
梟^{うけ}られ大和^{やまと}に在^あると親^{おや}同胞^{どうぼう}へ恥^ちをせん送^{おく}り朽^くきうさよ。山^{やま}辺^へせめて隆春^{りゅうしゅん}が
志^{こころざし}を父母^{ふぼ}に告^つげ。みだ後^{のち}より一篇^{いつぺん}の回向^{くわうきやう}を憑^よると鬢^{かみ}の毛^けを押切^{おしき}て短^{たん}
冊^{さく}とあり共^{とも}に通^{とほ}されし。そのせらぐらの像^{やう}見^みたり。これ見^みたまふと
指^{さし}示^しは羊^{やう}之^の進^{しん}その短冊^{たんさく}をさしよとありし。

悪^{あく}鬢^{かみ}の乱^{みだ}れどもうみ。あざとらうそらとどむづのの道^{みち}を。隆春^{りゅうしゅん}
と二^{ふた}び二^{ふた}び吟^{ぎん}ぶつ。羊^{やう}と面^{おもて}をあり。うが子^こどもらうがらうがらる。
芥^か王^{おう}孫^{そん}とふせねど。陶^{たう}五郎^{ごらう}のそ不幸^{ふしちゆ}う。反^{はん}逆^{ぎやく}人のそあし。
それ過^{なげ}世^{せい}の業^{ごう}因^{いん}あらめ。しひつ像^{やう}と一滴^{いつてつ}ある。恨^{うら}みと羊^{やう}七^{しち}も。
牙^{あは}がみありひや。涙^{なみだ}を禁^こめがれが順^{じゆん}啓^{けい}も穂^ほ姫^{ひめ}もこれが鳥^{とり}。

嘆息^{たんそく}。目^めをさへたれあふ。奥^{おく}よりれが括^{くわ}孫^{そん}微笑^{びぎう}に通^{とほ}も
共^{とも}に悲^{かな}びあふ。声^{こゑ}あり喜^{よろこ}ぶと泣^なぐ。羊^{やう}之^の進^{しん}えう。郎^{らう}君^{きん}の
出^で陣^{ちん}は不^ふ祥^{しやう}の哭^{なき}声^{こゑ}奇^き怪^{かい}。西^{さい}女^{にょ}僧^{そう}ハ何^{なに}処^{どこ}に在^ある。通^{とほ}り共^{とも}に
齋^{さい}。たるめん被^ま長^{なが}を順^{じゆん}啓^{けい}君^{きん}に進^{しん}らむ。と叫^{こゝろ}たつれが。中^{なかつ}に
涙^{なみだ}を禁^こめ括^{くわ}孫^{そん}微笑^{びぎう}が二^{ふた}く。扛^かりぐら。遠^{とほ}堰^いが通^{とほ}り中^{なかつ}に蓋^{あふ}
取^とり。武^ぶ運^{うん}を用^{もち}く小^こ椽^{せん}威^い五^ご枚^{まい}鉾^ほの星^{せい}兒^い現^{げん}故^こ郷^{きやう}の名^なあり負^おり。
大^{だい}和^わ錦^{きん}の陣^{ちん}羽^う織^おひ條^{じょう}小^{せう}奴^{にょ}袴^か。大^{だい}刀^{たう}六^{りく}具^ぐ。三^{さん}人^{にん}も。被^ませむら
すれ。順^{じゆん}啓^{けい}弓^{きう}矢^や扱^あえ床^{とこ}几^ぎに尻^{しり}をうけあふ。そのよ威^い有^あて猛^{まう}らふ。
赤^{あか}根^ね厚^{こう}倉^{くら}尤^{なほ}右^{みぎ}に侍^し立^{たち}し。暗^{あん}号^{ごう}の笛^{ふえ}を吹^ふたれり。奥^{おく}に集^つ會^{かい}し
系^{けい}諸^{しよ}の構^{かま}元^{もと}に里^{さと}人^{にん}あり。是^{これ}続^つ井^いの兵^{へい}士^しども。甲^か冑^{ごう}小^{せう}身^みを
固^かめ。散^{さん}動^{どう}し。さうきり出^で廣^{ひろ}庭^{てい}陝^{せん}し。と隊^{たい}伍^ごたり。当^あ下^げ厚^{こう}倉^{くら}君^{きん}が

後者亦由外面より入りきり来つ。二ツの櫃をうち披れ、鎧一宿する程に
 軍監尤右に押立る。旗に書たる二天の名子、嚴嶋辨財天女志貴
 毘沙門天王と高申す。唱はく。諸軍衆一拜する折、折らば校討らるる
 出のやうに事、事の越からるる。因果たる刀、治同樹のくみくみとめ
 慙懃として、善子のやうに這出はく。いと面も、頭を低七十餘歳の
 りのまをも欲し固め、五體一心、佛とも法とも辨む。造り罪こそ
 悔しけれ。今どつぐも忠臣孝子、義夫節婦、順孫の集て世も
 稀あるに、操説諦し、あゝ清談を、守てあゝ身が疎く。又鈍く
 恥しく。後悔今更その怒るれど、貞婦を詐欺し、賣らんと
 忠臣孝子を、虐たる悪報、今面り。この竹、鐵は、はらぬれん。
 南無阿彌陀佛と唱つ。折らる竹、槍、擡取す。吐つたに、せんら

たりしに、頃啓の仕。彼禁めると宣ふ。羊七中、さきりきり。竹
 槍、推乃とめ、五逆十惡の罪人、うらも。懺悔、あゝの罪滅と假も
 親と憑し、人の惡念を轉ぶ。善は、歸ると、飲く、てとゆへと
 といふ。槍の穂を棄す。背より、不投捨ま、頃啓の羊七と、同樹を
 近くおたす。その襦袢の中、ゆき。孤とあるの、さあ、その父
 定るる。し、乳母、さ、ま、ま、の、女、が、妻、の、恩、惠、を、又、う、が、妹
 擡。去、年、より、う、が、身、を、寄、し、も、女、が、妻、の、恩、惠、を、う、が、妻、の
 う、が、外、組、母、の、肉、縁、を、う、が、も、う、が、外、組、父、の、心、を、死、と、べ、ん。
 提婆、が、惡、も、釋迦、の、方便、女、が、妻、の、舊、菴、を、う、が、女、忽、地、道、公、を
 殺、と、と、れ、又、女、が、妻、の、徳、を、う、が、凱、陣、の、時、を、う、が、実、母、増、徳
 養、母、早、稲、組、母、小、田、井、長、女、が、花、孝、子、平、作、木、が、お、よ、永、年、の、法、會、を

彼も。括弧微笑の西比丘尼をば必大和へ伴ふべし。汝は今より。その
 草菴よ住持しく。お花木が菩提を後五所八反の良田を寄附して
 荒経の料とするさせん。餘命を去づるよ送り。と叮嚀し諭す。あ
 同樹の感涙滝の如く。順啓摠姫を伏拜す。又羊七木を拜す
 る。當下羊七の外母括弧尼牙婦微笑おは。沼多の新関を起
 難し。日国防牌面を惠ま。うらびを速顔のゆく変
 ぬ。おそれともあらず。立別。と愚こそおがりんとす。弟の
 憐を賄詰る程よ。お通由八千川の危難を脱して。入来たり。一
 るを物く。んが夏山の平太郎を呼び。羊七ホも遠く。あどるよ。
 時刻も。うらぬべし。羊之進天うら仰。りよ申の時。あ遠
 あり。日多治比へ遣。たる。仙野呂東二の。あどるよ。大江

家の消息の。あきらん。おり。と。ゆ。い。の。言。禁。ひ。ま。む。荒。ら。ど。働。と
 き。り。ある。呂東二道徒陣笠取。跪。げ。羊之進。信。と。ん。と。約。び
 ち。仙野呂東二大江家の吉。凶。い。つ。み。と。小勝。を。す。め。め。く。回。を
 呂東二。遣。の。袖。を。引。の。い。く。威。後。を。送。ひ。され。其。多。治。比。越。久
 再三。謀。し。ゆ。い。され。大江。太郎。乙。就。朝。臣。密。し。晴。賢。誅。伐。の。謀。を
 め。ぐ。ら。し。ゆ。い。その。便宜。を。ゆ。ぎ。り。し。時。を。来。つ。れ。陶。晴。賢。を
 嚴。嶋。へ。請。る。し。風。声。を。き。き。ゆ。れ。る。し。ゆ。い。され。大江。統。井。の
 軍。秘。不。意。よ。起。り。攻。討。の。晴。賢。を。虜。よ。あ。つ。べ。し。され。之。く
 雨。あ。ら。ぬ。を。や。宮。嶋。の。辺。于。浮。と。あり。し。自。在。よ。秘。を。進。め。が。じ。
 願。ふ。所。の。只。雨。の。そ。り。終。日。雨。あ。ら。ば。乙。就。が。晴。賢。を。御。食。意。の
 夫。役。と。偽。り。回。道。より。嚴。嶋。へ。押。し。を。め。彼。処。よ。對。面。し。軍

配をいひあひさんと宣りて。返書はこれとてせむ。羊之進受取て順啓
 進らすれに封皮推切て読らざらば就の謀畧その國は當れり刀治
 同樹懺悔して善公は立之れに九の件ありとありの悪人の絶て
 る。只憎むべれりの晴賢のそとるれども兩あらざら客易陶を討て
 頼む所の天女擁護拈拈微笑の読経して。辨財天女紙新れりと
 宣へい厚倉庫人ともそ出のすの小野小町の歌を詠とて。雨を獲
 たり。今のか通も幻推りて。敷嶋の道よりわら。秀歌をさく多と
 ばげ。雨乞の歌を詠て。辨財天女を祝しあへといふは順啓ら
 五頭車人のくもゆりたり。天地を動をも元未和歌の徳と笑げ
 通のの音らるゆて準備せよと仰せれば。か通の再三辞しやうと
 槐姫傍より。此るもあて諭すめて。姫君の料めとて厚倉が齧らる。

五衣緋袴も親られを賜ふか通の推辞は言察あり退て衣裳を
 更括拈微笑りあとも小庭は出つて半個たる曲演のりらり立を軍
 兵小をるをゆて。轉て運み経札科紙硯をとりそえて。準備
 既と整へいと晴がましくそえより。わら拈拈微笑尼の念珠を
 押捺合掌。能と摠持大智惠聚大辨財天神體。是は女藝團
 沼多郡宮嶋は宮柱太く建て祝れあふ市拈嶋姫の神徳神威
 空うらびに今立化は兩あらし。続井大江の両兵より力て戮しなびあへ
 か通のりた且く念じて嚴嶋を遥拜し。兩女僧の茶く光明経の紐を
 解て三遍戴た廣宜流布乃至得聞是経當令是等悉得猛利
 不可思議大智慧聚不可量福德之報と読経の声の澄らる。
 いとも尊くばえり。か通の小雲時うち茶とて墨搦るが筆を



添く短冊よ詠歌を書記し。筆を閑け。

日を増つ。民の草葉のわかれゆくよ。あふみの雨をうらをそがん。
わくの三遍吟いつ。目上よ捧ぎの天女感傷したまひもん庭の
さ水浪さちそ。一天減頂よ結弦風颯とあふ。あつ。彼短冊を
空中よよたのがするとぞんえたりじ。雷雨俄頃よありそそぎ。
草木も人も魁よの順啓同胞赤根厚倉天よ飲ひ地よ喜ぶ。
同樹をさらあり。軍兵あま。濡るも厭わく。異口同音小あがの
感。止ざりあり。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
微笑の面を打く。降流と移よ。爛てる火傷の跡洗ふか如く
愈消く。昔の如くよあり。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

冥助るあつと。衆皆信公膽よ微く。またのりくありひ

あり。順啓の殊更よ感悦頗気色よ見よ。括義微笑が詠経
の奇特の能因が和歌よあらど。お通が詠歌の小野小野が請雨
小異ありと。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
能括義因微笑と。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
小野小通と唱へべ。獲るるあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
考陣せん。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
馳よりのあり。是則蟻松曾太郎あり。柴門よ馬乗捨て徳と
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

了るを知られ曾太郎を遣さる所あり。郎君當家の大御
 軍とて晴賢を撃つあり。在るが敵を侮
 らん欲して室町殿へ申し請ふ。大和女は仕ぢらる。ゆづ
 姫君の括兼微笑お通ホをおく。一圓平城へ帰籠あるを
 むん迎の御系上せりと演説されば順啓の謹言父の命を承
 且賤松を勞ひたまふ。その隙に赤根親子厚倉の兼中あり
 遣つ。先陣後陣と立るるべし微笑の涙さうさう。平太郎が手を
 さら。羊七が側へ推ゆり。ありの程ある忠義を竭さる。ひる
 あり。又の代は足手纏ひはゆるとも此平太郎を伴ふと
 いひつけ。さうさう泣く。羊七有程と平太郎を遣の上は楚と
 肩ひ親に代り。天折せり。才兼松平作が再びら小倉倉。

忠義を演る四歳児の初陣伯父の若く分捕さる。それら
 る念とせむ故郷へ歸すあり。家ある母とら不在。賤松
 翁お花がゆを言告てなぐとむらう。鎧の袖を密に濡す。
 雨のちんちんをゆきあ。襟をみぶいて降るがせ。順啓毫を
 取るる。時刻務らひひがひあり。し就は先ぢらる。や
 出陣と促し。馬取の雑兵が縁頼ちぬ。牽居る月毛の
 駒も西へ入る佛の利益神の加護めをた。凱陣有ら。と送る
 姫君女僧お通へ。徳羅の巻をえ捨つ。大和とゆく起程残る
 同樹ハ八重津と。藤原の弓朱柄の槍の赤根厚倉勇。
 主を守護し。立出する。

台夢南柯後記卷之八終

飯台曲亭馬琴戲作



葛飾北齋辰政畫



做書

嶋岡節亭
鈴木武筍

剗刷

朝倉伊八
木村加兵衛

三七全傳南柯夢

馬琴著
北齋画

全六册

三七全傳 第二編 占夢南柯後記

右同

前帙四册

同後 性第三編 四册

賣出一申儀

早引人物故事

東郡彌惟充著

横本全二册

△人物故事 上古神代より近世の事まで、
 希世の公卿、地下人等、和歌、伝文の名、
 貴士の畧傳、り、事、柳、儒門、医学、
 列女の傳、紀、武、勇、士、豪、傑、
 小、説、の、名、作、事、歴、時、代、の、
 大、説、の、名、作、事、歴、時、代、の、
 好、ま、の、名、作、事、歴、時、代、の、
 作、の、名、作、事、歴、時、代、の、
 要、の、名、作、事、歴、時、代、の、

安くありてく徳入ふしと申文と申すも
人字小志と申すは婦女の友誼と海内七賢
対書幼雅より一代又一代と傳へて流るるの
書と云ふは婦徳と備ふる大い有益の書なり

心學子五則 全書冊 録田柳氏先生作

人倫の正法といふは持故積仁知命は長者の五則
のこゝも學ばざれば是れが破るる心五則の
人よちるまの平かもく解見量は時より難とす
仁義の道とて自ら質素節儉と悔い直すこと
を海とて世を比の善なり

釋尊御一代記圖會

全部六冊

山田意齋叟參考
前北齋老人圖画

釋迦如來の御文淨飯大王の御即位と發端と
如來摩耶夫人の胎内小生と託多事憍曇彌夫人摩耶胎内乃
王子の出生及妨と道師小呪阻せむる條如來夢中乃説法小母の十思
と筑多變淨飯王藍毘尼園小花の宴と催多心達太子誕生の奇瑞
悉達太子御幼推し喜提心と發多謂釈迦提婆遺恨の始悉達太
子宮中と出て檀特雪山小難行と正覺成道と出山と衆生と濟度
多變迦葉舍利弗目蓮及諸羅漢佛弟と成和解耶愉陀羅女の負心
提婆多十惡須達月蓋兩長者の信心流離王の暴惡釈尊御入滅五妙
神力涅槃像の歎と都て如來御一代の事と記圖と加難有續本也

